

## < 商品の梱包はリサイクルを考えて >

新しく購入した商品を家に持ち帰り、梱包を解く時、結構ワクワクするものですよ。

洋服だったりすると、自分に似合うかなあとか、

食べ物だったりすると、おいしいかなあとか、

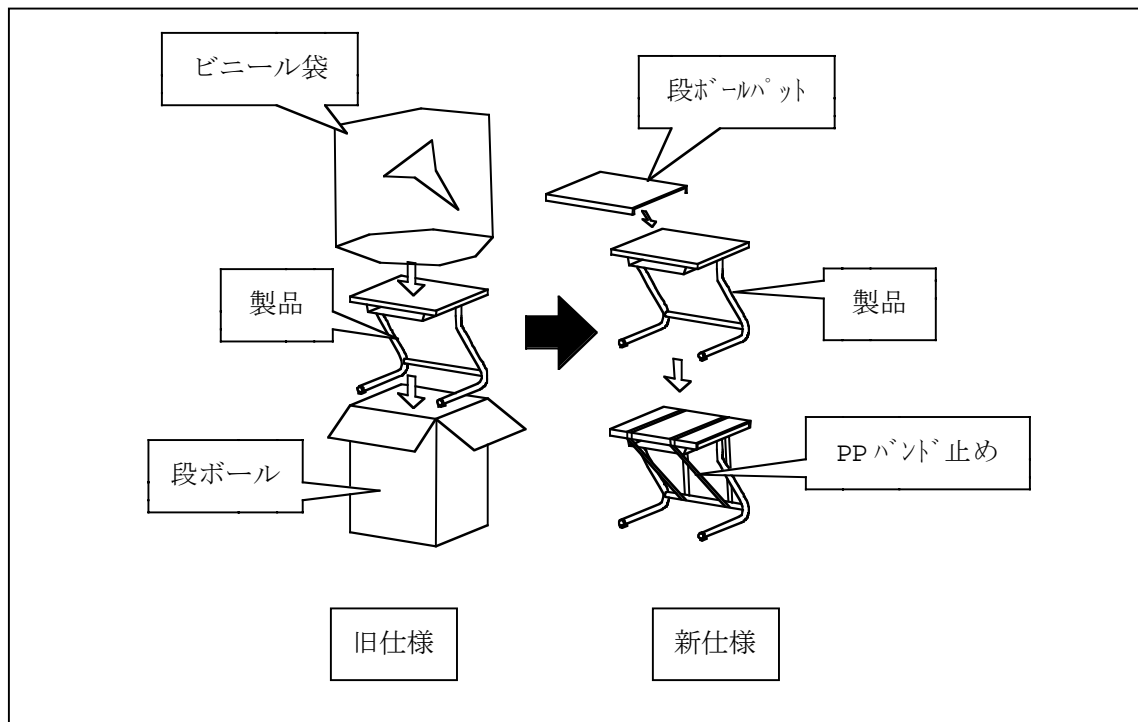
誰かからの贈り物だったりすると、どんな商品なんだろうとか、

家具だったりすると、部屋にマッチするかなあとか、

いろいろ考えながら梱包を解いて、いよいよ商品と対面し、一喜一憂した経験は誰もあると思います。期待通りだったり、そうでなかったり。

でも、その脇で、これから捨てなければならぬ梱包材のかたまりをみてうんざりしたことはないでしょうか。紙くず・ビニール・発泡スチロール・ゴムなど、商品を保護するためとはいえ、使用後ほとんどがゴミとなって捨てられてしまうこれらの梱包材は、ゴミ問題の原因ともなっています。特に、家具・什器・備品類は、その大きさもさることながら、学校や施設などの新設時や企業などの移転時などには一度に大量に納入されるため、捨てられる梱包材の量も多くなってしまいます。また、梱包材は工業製品であり、その製造・運搬過程でも環境に影響を与えているといえます。

そこで、商品に傷をつけず、商品価値を損なわない程度に、商品の梱包をできるだけ少なくできないか考えられてきました。例えば、学校で使用する机や椅子は一度に大量に納入されるため、梱包材の種類を減らすことは、ゴミの減量だけでなく、商品の輸送に必要なトラックの台数の削減にもつながります。



また、使用後の梱包材を再利用する取り組みも積極的に行われています。ダンボールはもちろん、ビニールやプラスチックなどは繰り返し何度も使用でき、最終的に使用できなくなっても原料として同じ材料のほか別の製品などに再生することができます。

例えば、自動車が工場を出荷して、買主のところに届くまでの間、ボンネットやトランク、ルーフ（屋根）を保護するために、以前はワックスを塗っていましたが、洗浄するのに多量の水を必要とすることや、ワックスで汚れた水が川や海を汚すことから、最近では、特殊なフィルムが使用されるようになりました。このフィルムは、従来のワックス利用時の欠点を解消するとともに、使用後は、剥して繰り返し使用できるという利点も持っています。